
あやかし花火

豎川杼緯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あやかし花火

【Nコード】

N1717U

【作者名】

豎川杼緯

【あらすじ】

梅雨の中休みのある日の宵に、少年はあやかしに出会った。

日が暮れて宵をむかえた川のほとり。

梅雨の中休みを利用して散歩を楽しむ者たちもすでに途絶えた、護岸の一環として川岸に作られた芝生の広場と遊歩道。

その遊歩道の反対側。堤防に設置された階段の一番下の段にうずくまって小学校低学年くらいの少年が声を殺して泣いていた。

するとどこから弾んだ声が響き渡った。

「どっかーん。ひゅーどーん」

「ひゅーどーんばらばらー」

突然聞こえてきた声。その声の主に泣いていたことがばれないようにと少年は慌ててごしごしと手の甲で涙をぬぐう。

そうしているあいだも楽しそうな声は絶えず聞こえてくる。

「どっひゅーん」

「ひゅー、ひゅー、ひゅー」

「どーん」

きよろきよろとあたりを見まわしていた少年はやがて座り込んだ体勢のまま首をめぐらす。そして数度瞬いた。

「うしろ……？」

どうやら声は川岸の広場から発せられているようだ。そのことに気づいた少年は四つん這いになってそつと階段を上っていった。

堤防の上までたどり着くと、いったん目をつぶって唾を飲み込む。そうやって覚悟を決めてから再び目を開けた少年は音を立てないように注意しながらそつと広場を覗きこんだ。

目を睜つて息を呑む。

そこには見たこともない茶色くて丸いものがいくつも跳ねていた。

「どーん」と言っては跳ね。

「ひゅー」と言っては跳ねる。

そうして頂点で「どーん」で小さな手足をいっぱいに広げ、落下しながら「ぱらぱらぱら」と体を点滅させる。

それはどこか打ち上げ花火をほうふつさせた。

あまりにも楽しそうに跳ねているものだから、それらがあやかしの類であることも気にならず恐怖もわかなかった。もとより少年にはそんなことは知りえなかったためなんの意味もなかったが。

少年がそつと近づくと、あやかしたちもようやく少年の存在に気づいたようで楽しそうに手を振ってきた。

「おい、どうした人間」

「こんな時間にうろろしているとさらわれるぞー」

わらわらと少年の足元に群がる小さなあやかしたちに口々に諭すような口調で話され、少年は口を尖らせた。

「人間っていうな。僕には大地^{だいち}っていう名前がちゃんとあるんだ」
けれどあやかしたちは気にしたようすも話を聞く気もなかった。

「そうかい人間」

「そりゃよかったな人間」

なにが楽しいのか、あやかしたちはきやらきやらと笑う。

大地はブスリとした顔つきでその場にしゃがみ込んだ。

「おまえたちはなんでそんなに笑っているんだよ？」

しゃがみこんだことによってあやかしたとの距離が近くなり、大地が手を伸ばせば触れることができるほど。

「なあ、なんで？」

こくりと首をかしげて大地が問えば、あやかしたちはまた嬉しそうに跳ね始めた。

「そりゃ楽しいからさー」

「おもしろいぞー」

「人間も跳ねてみるよー」

口々に跳ねる跳ねると誘われる。質問に答えてもくれずに勝手なことばかり言うあやかしたちの行動に、大地はますますへそを曲げた。

「そんなことしてなんになるんだよ。おまえたちは花火みたいだけど花火じゃないし。僕は本物の花火が見たかったのにッ」

止まったはずの涙が再び大地の瞳を濡らし始める。

「なんだ人間、花火が見たかったのか？」

「そうだよ！」

「だったら見に来ればいいじゃないか」

「どこへだよ。来週の花火大会は中止になったってお父さんが言っただ。連れて行ってくれるって約束したのに！ お父さんのうそつき！」

抱えた膝に顔を埋めるようにしながら大地は泣きながら反論した。
あやかしたちがいつせいにニターッと笑って飛び跳ねる。

「どーん」

「ひゅー」

「どっかーん」

「ぱらぱらー」

大地を取り囲んだあやかしたちはそう言って何度も跳ねる。

「おまえたちうるさい！　なんでそんなに跳ねてるんだよっ」

「だって練習しないといー」

ようやく答えらしき言葉が返ってきて、思わず大地は顔をあげた。

「練習？」

「そう練習」

「なんの？」

「決まってるだろう。俺たちは打ち上げ花火だよ。夜空で最高にき

れいに咲く練習だよー」

「……打ち上げ花火？」

「そう！」

あやかしたちがいつせいに声を揃える。

「本物？」

「本物！」

さながら合唱のようにみごとにはもって響く返答。

「なんで？ 花火大会は中止になったんだろう？」

「なつてなーい」

「遅くなっただけー」

「準備する余裕がなかったんだつてよー」

「だから俺たち生まれたばかりー」

「だから練習してるのー」

そういつてあやかしたちは跳ね続ける。

やがて大地の目の前にいたあやかしがその小さな手で地面をぺちぺちと叩いた。

「おまえの名前はこれだろう？」

「これつて？ なにを言ってるのかわからないけど僕の名前なら大地だよ」

あやかしはにぱつと笑つてうなずいた。

「だろう？ だったらめそめそ泣くな。こいつみたいに……」

そう言つてあやかしはまたしても地面を叩く。

「がっしり構えているんなもんを支えないといけないんだろう？」

「え……っ」

目を丸くする大地にあやかしたちが言う。

「遅くなるけどー」

「花火大会はちゃんとあるからー」

「絶対見に来いよー」

「俺たちきれいに咲くからよー」

そして再び目の前のあやかしが大地を真正面から見返した。

「早く帰れ。人間はもう家の中にいる時間だろう？ 夜は俺たちの時間だぜ。ちつたあ譲れよな」

きやらきやら笑つて手を振るあやかしたちに見送られて大地はようやく家へと帰つていった。

帰宅するなり両親に大目玉をくらった大地だったが、二月ほど遅ふたつきれて開催された花火大会には約束通り連れて行ってもらえた。

夜空に咲くみごとな火の花。

花火は跳ねたり喋ったりしないと両親に教わった大地は、あの時見たものたちがなんなのか考えていた。

彼らの言うとおりにこうして花火大会は開かれた。けれども花火は勝手に動くことすらないという。

（あいつらはいったい……）

そんな風に考えていると、あるものが大地の視界に飛び込んできて目を丸くした。周りからもどよめきが沸き起こっている。

夜空には花火が描く『大地』の文字。

そして次に打ちあがったのは『ガンバレ』。

（ああやつと……）

大地は嬉しさのあまり涙が浮かんできた。

「やつと名前を呼んでくれた」

やっぱり花火はいたんだ。

あとはただひたすらに華やかないつもの花火だったが、大地は満足そうな笑顔で見続けた。

それからいくつもの時が流れたが大地は二度と花火のあやかしに会うことはなかった。それでも梅雨の中休みの宵には、時間を見つけてあの場所へと足を運ぶ。

そしてこの日は幼い息子を肩車して訪れた。

（こうやって息子を支えられるくらいにはなつたぞ）

毎年ひとりで訪れては成長の報告をしていた大地は、今年初めてほかのものを連れてきた。

さすがに妻を連れてきてここで抱き上げ、こんなこともできるようになったぞとは恥ずかしすぎて無理だった。妻にも説明などできはしない。けれどこんな幼い息子であれば肩車をしていたとしてもいいお父さんで済んでしまう。

（今年の花火大会も楽しみにしているぞ）

ひとりごとで大地はその場を後にする。

なにも見えなくても構わなかった。

ただ大地が報告したいと思ったからしただけ。

あやかしたちにはそれを聞く義務などないのだ。

くすりと笑みを漏らした大地の肩の上で、息子が突然「どーん」と言っではしゃぎだした。

「え？」

見上げると、息子は広場を見つめながら楽しそうに手足をバタバタさせている。

「どん、ひー」

さらに続けられた懐かしい言い回しに、慌てて大地が広場に目をやったが、どうやら息子にしか見えないようだ。

けれど。

「いるのか……、そこに？」

年甲斐もなくあふれてきそうになる涙をこらえるために大地は目を閉じた。

「どーん」

息子の声に重なって、あの日の記憶がよみがえる。

はしゃぎ疲れた息子が眠りにつくまで、大地はずっとそこに立っていた。

見えなくてもそこにいる。

あの日はこうして今へとつながっている。

花火を見るたびに思い出す。

あの日の夜空に咲いた奇跡の文字を。

『大地』

『ガンバレ』

——ああ、頑張っているよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1717u/>

あやかし花火

2011年6月18日16時10分発行